（様式1）　　平成　23　年度

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2874001411		
法人名	社会福祉法人　三光志福祉会		
事業所名	グループホーム　志深の苑		
所在地	兵庫県姫路市御国野町深志野1430番地		
自己評価作成日	平成23年7月5日	評価結果市町村受理日	平成23年8月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2874001411&SCD=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　姫路市介護サービス第三者評価機構
所在地	姫路市安田三丁目1番地　姫路市自治福祉会館6階
訪問調査日	平成23年7月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者さんが、ゆったりと自分らしく過ごせる家庭的な雰囲気作りをしていること。
毎日、緑の多い自然の中を散歩していること。
月に一度は全員で外出して、楽しみを分かち合っていること。
個々の生活を大切にしつつ、皆と一緒に過ごす喜びを感じてもらうよう、共同作業も行ってもらっていること。
季節ごとの壁画作りを、利用者と職員が一緒になって行っていること。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

グループホーム志深の苑は、姫路市東部に位置し、田畑と山々の自然豊かな高台にある。ホーム内では、理念に沿った、自分らしい、喜びのある、大切にされる暮らしがあった。訪れる人達からは「癒しの空間」との言葉が出る。天井が高く、ゆったりと開放感のあるリビングはキッチンと一体となっており、家庭の生活が目に映る風景である。周りの壁には利用者が作成した季節ごとの壁画が飾られている。日課の居室掃除や食事作りを、それぞれ役割分担とし利用者同士助け合ったりしながら、日々の生活が営まれている。法人として、特別養護老人ホーム、ショートスティ、ケアハウス、デイサービスが併設されているので、多方面での協力体制がある。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および第三者評価結果

（セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。）

自己	第三者	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げ共有しており、実践につながるようにしている。日々の振り返りの基準にしている。	管理者は「地域の人々と共に」の文言をいれた解りやすい理念を作り、日々の中で職員と共に当たり前に実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の秋祭りの時には地域の方々を招いて行っている。地域の祭りでは、獅子舞に来てもらっている。月ごとのイベントには、保育園児に参加してもらうなどの交流はある。ただ、日常的な交流となると難しい。	季節ごとの地域の行事に参加したり、施設の秋祭りに招いたりの相互の交流はあるが、地域のボランティアの出入りがなかったりし、地域との付き合いが希薄になっている。	管理者は地域との関わりの必要性を認識しているので、運営推進会議でのメンバーの協力を得ながら、地域と日常的に交流していってほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今のところ、そういった機会はないが、介護教室を開くなど地域の人々に貢献できることがないか検討中である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域との関係が希薄であることを、法人全体の問題と認識し、改めて関係を築いて行くにはどうすれば良いのか模索中である。有意義な運営推進会議を開くべく、検討中である。	7/19　運営推進会議が開催された。メンバーには別所民生委員、深志野民生委員、地域包括支援センター職員、家族が参加されている。会議で認知症については、本人の思いを尊重したいとの意見がでている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡会を通じて、市職員へ実情や要望を伝え、介護保険等で連絡事項がある時は、研修日に時間を取って伝えてもらっている。	年3回、17施設によるグループホーム連絡会が開催され、都度　管理者は参加している。昨年は運営も担った。連絡会には市職員も参加されるのでその際、介護保険課の職員との関係づくりができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束が必要となっても、拘束が外せるよう検討している。外すのが困難な利用者でも、拘束をしない時間を増やすよう努めている。玄関のドアは、散歩をする時間に限り施錠しないようにしている。	身体拘束をしないケアのため、入居者本意に環境を工夫している。職員も身体拘束をしないケアの必要性を認識し、昼食時には、車椅子から、椅子に座り変えてもらい拘束排除に取り組んでいる。又、散歩の時間は玄関の施錠をしないよう努めている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会を開くなどして学び、意識の向上に努めている。	職員会議で虐待の防止の勉強会をし、日常の中で言葉掛け等を意識しながら変えていっている。	

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援する機会はないが、勉強会を開き制度の理解を深めるよう努めている。	管理者はグループホーム連絡会での「成年後見制度について」の研修を終えてきたところであった。職員には月1回の職員会議で伝達研修を行っている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	契約時には、こちらから積極的に疑問点がないかを尋ね、十分な説明に努めている。	制度についての説明を行い、共同生活のためのルールを理解してもらっている。利用者の思いを大事にして、ゆったりした生活を支援することを中心に説明し、不安や疑問がないか尋ねている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は、日常生活の中で話を聞いたり、利用者間の会話の中から意見を拾い出している。　家族は、面会時に意見や要望を聞くように努めている。	家族からは、運営推進会議や面会時に意見を聞いている。利用者からは、日々の生活の中で聞いて改善している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っている会議において、職員の意見や提案を聞いている。また、普段の業務中にも意見を聞き、それらを反映させている。	職員会議で職員からの意見を聞き、手摺をつけた。又、日常的にも意見を聞き、身体拘束をはずしたり、清拭タオルのリースを入れたりと反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境･条件の整備に努めている	4月に施設長が交代し、見直しをしているところである。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所としての計画的な学びの機会は、確保されていない。 法人外の研修を受ける機会がほとんど確保されていなかったことを、施設長が把握し受ける機会を増やすよう検討している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会への参加により、研修会や情報交換などをしている。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話をする機会を多く作り、本人の思いを傾聴し、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていることや要望を傾聴し、不安を解消できるように説明している。話し合いの中で、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の状態をよく把握し、サービス選択のアドバイスをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ラジオ体操、掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、料理、縫物、草引きなどを一緒に行っていく中で、利用者の力を発見し、教えてもらったりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と情報交換を行い、対応の仕方を相談して、利用者への対応を行っている。利用者の言動などについて話し、職員と家族は思いを共有している。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅の近隣の方々がデイサービスを利用される日には、そこへ遊びに行ったり来てもらったりしている。	外出や外泊の帰りに、自宅に立ち寄り関係が途切れないようにしたことがあった。馴染みの方がデイサービスを利用した日はホームに来てもらったりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から、利用者同士の関係を把握し、何かを行う時には声をかけて一緒に過ごしてもらったり、一人寂しそうにしていたら、利用者から声をかけてもらうよう促したりしている。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今のところ、そのような機会がない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の言動から、本人の望む暮らし方を把握するよう努めている。	利用者から希望を聞かれることは少ないが、日常の利用者の様子で察している。一人で過ごされている人、そっと居室で居たい人などの思いを感じ取ることができる。自分史の作成にも取り掛かっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴など、まだまだ不十分であるが、本人や家族に聞きながら情報を増やしていっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の一日の様子を観察し、どのような思いで過ごしているのかも把握できるように努めている。また、それを職員間で共有している。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本位で検討、家族からの希望やアドバイスを反映して、職員間で話し合って作成している。	1年ごとに介護計画を作成している。状態の変化があれば都度、見直しが行われている。利用者や家族の意見が反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践結果や気づきなどを個別に記録し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居以前にデイサービスを利用していた方の希望で、併設のデイサービスで過ごしてもらう時間を作っており、仲良しの利用者もできている。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今のところ、地域資源を活用する場面は思いあたらないが、必要であればいつでも対応していく。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望する医師の医療を受けられるよう支援している。協力医療機関へは、利用者に変化があった場合に相談し、受診するようにしている。	かかりつけ医の受診は家族の協力が得られている。協力医療機関は月2回の往診が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の変化に気付き、対応や受診に迷うような時は、併設の特養やデイサービスの看護師に相談し、適切な受診が受けられるように支援している。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、安心して治療できるように、医療機関へは出来る限りの情報を提供し、本人の性格や言動についても伝え、病院関係者と本人の良い関係が築けるよう努めている。また、対応についての相談にも乗っている。	2ヶ月入院された利用者がいた。その際、情報に性格面の記載もしたため、入院先の対応に役立ったと聞かされた。利用者が安心してホームと同じ様に対応していただけるよう医療機関との協働に努めている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者家族、協力医療機関と話し合いを行い、段階を追って職員間で話し合い、事業所の対応力を見極め支援に取り組んでいる。	協力医療機関の往診診療をうけながら、終末期の利用者を支援した経緯がある。ドクターから家族への説明と共に介護職員も手厚く介護に取り組んだ。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時についての勉強会を行ってはいるが、実践的なものは行えていないので、定期的な訓練が行えるようにしたい。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、避難できる方法を職員が身につけられるよう努めている。	スプリンクラー、熱探知機、煙探知機、消火器、消火栓が設置されている。法人全体で行われる避難訓練に参加している。	運営推進会議で地域に協力依頼されることを期待したい。独自の避難訓練も必要と思われる。

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねない、声かけや対応を心掛けている。	一人ひとりの誇りを損ねない言葉かけに配慮している。特に、家族から「プライドが高いから」と助言された利用者の日々のケアに職員の力が活かされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ本人が自己決定できるよう説明し、希望が表せるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側から声かけや促しなど働きかけはするが、本人のペースを大切にし、希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時などは特に、本人と相談しながら服を選んだりしている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が一緒に調理や準備を行っている。調理ができない方には、野菜のヘタ取りなどをしてもらっている。	朝食と夕食は特別養護老人ホームから食事が運ばれている。昼食は、ホーム内で食事作りがされている。流し台が二箇所に設置されている広い台所は、利用者と共に作業するのに適しており、力の発揮できる場面である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量が偏る方には配膳の仕方を工夫したり、偏食の方には何度も声をかけ具材の説明をして促したりしている。水分補給を定期に行い水分量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個人の歯ブラシとコップを準備し、洗面所に来てもらって、可能な限り自分で口腔ケアをしてもらうよう習慣づけている。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限りおむつは使用せず、紙パンツを着用して排泄パターンを考慮しトイレ誘導している。	各居室に車椅子でも入れるトイレが設置されているのが、自立支援に大いに役立っている。一人ひとりの排泄パターンを知り、日常的に自立にむけた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分が不足しないように水分補給の機会を作って、お茶などを飲んでもらっている。また、毎日の散歩を行って運動不足を予防している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴室の構造上、個々に合わせた入浴ができない。週間の日課により、曜日や時間帯が決まってしまう。特に、利用者からの希望も聞かれない。	高台の見晴らしのよい浴室で、1週間に3回入浴が行われている。職員からは、家庭浴槽が1つあればとの声もあるが、特浴と3～4名が一度に入れる大きな浴槽で入浴が行われている。季節に沿った、菖蒲湯やゆず湯が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの利用者に合わせて、その日の状況に合わせて対応している。日中でも、眠りたいときには眠ってもらえるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どのような目的で飲んでいるのか把握し、確実に服薬できるよう支援している。症状の変化にも注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理、掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみなどに力を発揮してもらっている。和裁の経験のある利用者には、縫物をしてもらったりしている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週に一回は外出日を設け、買い物に出かけたりドライブに行ったりしている。利用者の自宅を訪問することもある。	毎朝の日課として、ホーム周辺の散歩が行われている。毎週、買い物に出かけ、毎月、ドライブや外食に出かけたりと、日常的に外出支援が行われている。	

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの利用者の財布を、職員が管理している。本人の力に応じて、財布を所持してもらっている方もあり、支払いを自分で出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、職員が電話をかけ取り次いでいる。自室に携帯電話を置いている利用者もいる。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁には、皆で作った季節の壁画や季節に合った習字を飾っている。廊下には、皆で外出時などのイベント写真を飾り楽しめるようにしている。光や温度管理は常にしており、ナツメロの音楽を流したりもしている。	リビング、キッチン、浴室等全て共有空間は広く閉塞感がない。リビングの壁には共同作品の壁画が張られてあった。又、次の壁画作りとして、折り紙を利用者同士で教えあったりされていた。ソファーも、程よく置かれ一人でも過ごし易い環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやベンチを南北に配置し、利用者は思い思いに一人でゆったりと過ごしたり、利用者同士で談話したりして過ごしている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで使っていたタンス、こたつ、仏壇などを置き、思い思いの部屋にしている。	利用者が自ら案内してくれた居室には、手作りの折り紙や写真が飾られ、又、自宅から持ち込まれたタンスが置かれ居心地良さが伺えた。何より各居室には、車椅子でも移動できる広い、洗面所とトイレが設置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に名札を付けている。自立しているが歩行が少し不安定な方には、居室中央に家具を置いてもたれかかれるように工夫している。		